

マーケットの動き（2025年6月16日～6月20日）

先週の国内株式市場は、前週末比で上昇しました。

米国株の上昇や、円安進行などを受けて国内株式相場は上昇しました。その後は、中東情勢への米政府関与を巡る地政学的リスクの上昇や、FOMC（米国連邦公開市場委員会）の結果から、インフレリスクが意識されたことなどを受けて、投資家のリスク回避姿勢が強まり、上昇幅を縮めて週を終えました。

投資環境見通し（2025年6月）

国内株式相場は戻り一巡後の上値は重い

企業業績については、米国関税政策を巡る不確実性が残ることに加えて、円高ドル安圧力が輸出関連企業の下押し要因とみられます。

米国関税政策に対する過度に悲観的な見方は後退しつつも、世界景気は減速するとみられる中、日米貿易協議においては顕著な進展がみられず、投資家心理の改善には時間を要するとみられることから、国内株式相場の戻り一巡後は上値の重い展開になるとみています。

	6月20日	騰落率			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
TOPIX（東証株価指数）	2,771.26	0.54%	1.18%	2.56%	1.68%
日経平均株価	38,403.23	1.50%	2.33%	▲0.77%	▲0.59%

※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日（休日の場合は前営業日）までとします。

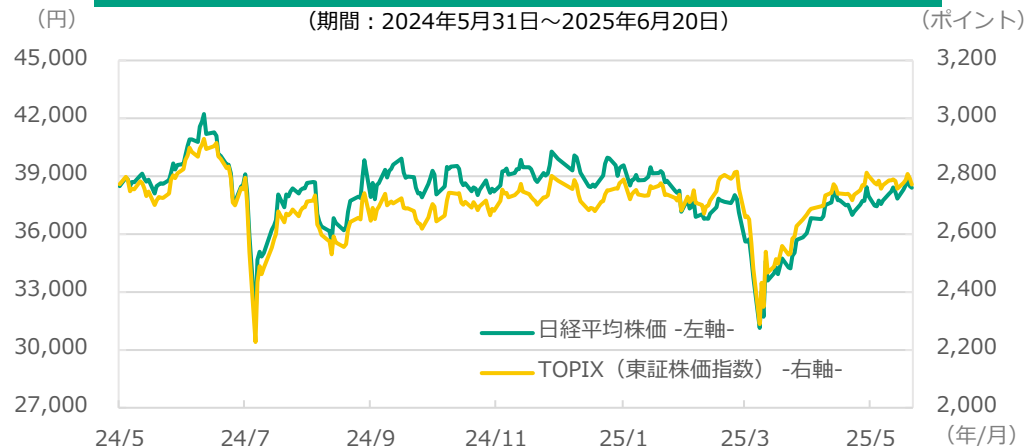
※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202506_outlook.pdf

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客様の投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客様自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>

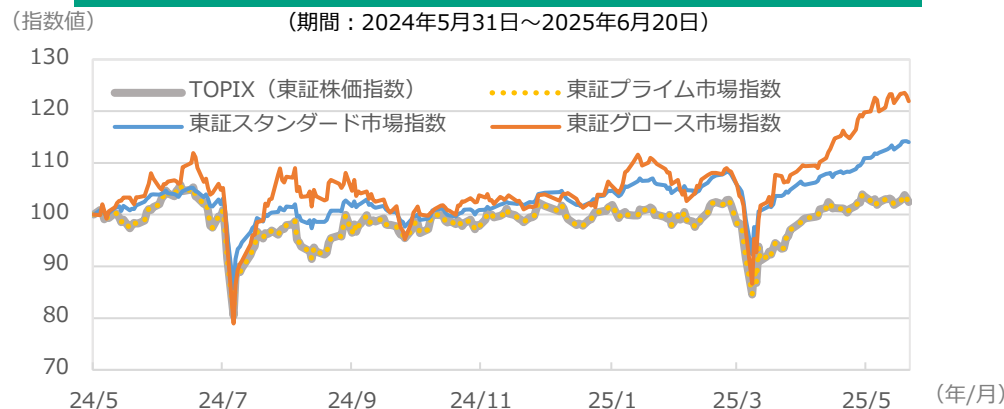
日経平均株価、TOPIXの推移

（期間：2024年5月31日～2025年6月20日）



東証市場別指数の推移

（期間：2024年5月31日～2025年6月20日）



※2024年5月31日の値を100として指数化

※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成

マーケットの動き（2025年6月16日～6月20日）

先週の米国株式市場は、前週末比でS&P500種株価指数は下落した一方、NYダウはほぼ横ばいとなりました。

週初は、イランの核協議再開への期待などから米国株は一時的に反発しました。その後は、中東情勢への米政府関与を巡る地政学的リスクの上昇や、FOMC（米国連邦公開市場委員会）の政策金利据え置き決定など、様々な要因が交錯し方向感に欠ける展開となりました。

欧州株式市場は、前週末比で下落しました。

投資環境見通し（2025年6月）

外国株式相場は、米国、欧州とも戻り一巡後の上値は重い

企業業績については、追加関税発動前の駆け込み需要の反動や長期金利高止まりの影響から下振れが懸念されています。米国株式相場は、関税政策に対する過度の悲観的な見方が一旦後退し、戻り歩調となっているものの、今後は駆け込み需要の反動や長期金利高止まりの景気に対する影響を見極めつつ、上値は重くなるとみています。

欧州株式相場は、ECB（欧州中央銀行）が利下げ姿勢を続けるとみられますが、米国関税政策の影響から景気減速が懸念される中、上値は重くなるとみています。

	6月20日	騰落率			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
S&P500種株価指数	5,967.84	▲0.15%	0.46%	0.62%	9.04%
NYダウ	42,206.82	0.02%	▲1.10%	▲1.48%	7.85%

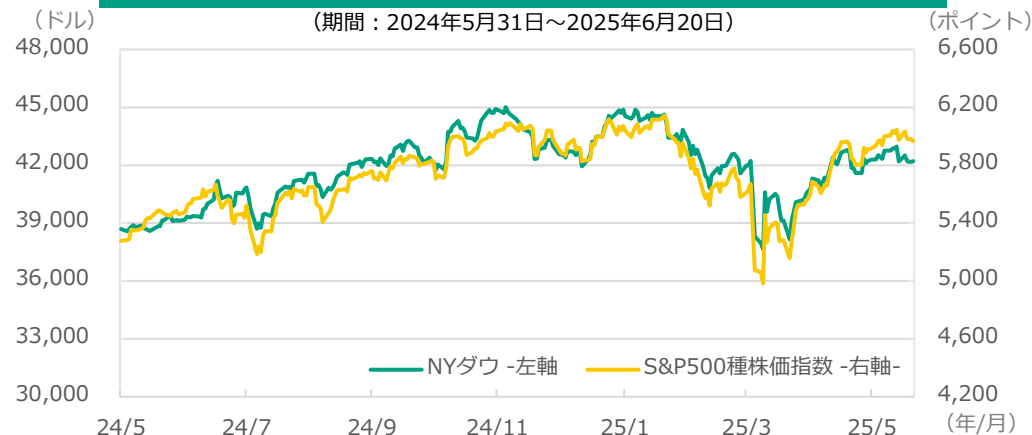
※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日（休日の場合は前営業日）までとします。

※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

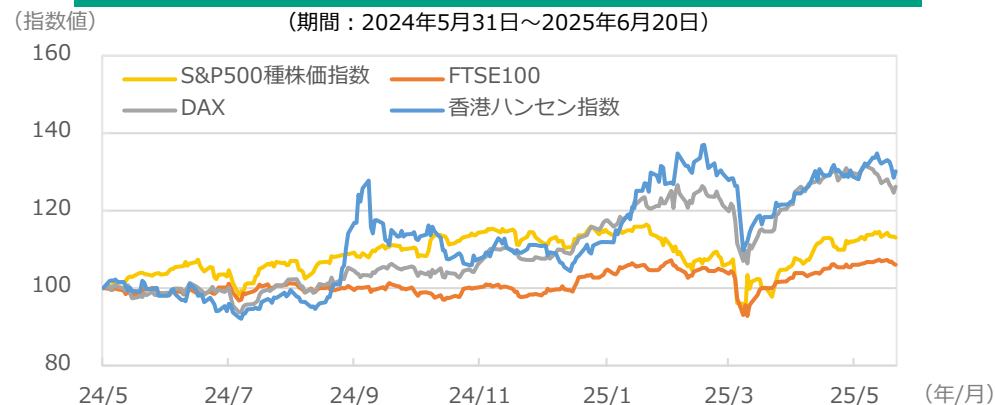
https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202506_outlook.pdf

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客様の投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客様自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>

米国株価指数の推移



主要国株価指数の推移



※2024年5月31日の値を100として指数化

※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成

マーケットの動き（2025年6月16日～6月20日）

先週の国内債券市場は、前週末比で金利はほぼ横ばいとなりました。
週前半は、日銀金融政策決定会合の結果公表などを受けて国内長期金利は上昇しました。週後半には、日銀総裁会見が利上げに消極的と受け止められたことや、中東情勢の緊迫化などを受けて金利上昇幅を縮めて週を終えました。
クレジット市場は、旺盛な投資家需要を背景に、堅調に推移しました。

投資環境見通し（2025年6月）

国内長期金利はレンジ内で推移

米中貿易協議に進展がみられた後、国内長期金利は超長期の年限で国債利回りの上昇が波及する形で上昇しました。ただし、日米貿易協議において顕著な進展はみられず、景気下押しも懸念されることから、日銀による早期の利上げ観測は後退しているとみられます。一方、7月の参議院議員選挙を控えて政府による景気対策が打ち出される可能性もあり、国内長期金利は上昇・低下の双方材料が交錯する中、レンジ内で推移するとみています。

	6月20日	変動幅（騰落率）			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
10年国債利回り（日本、%） （変動幅）	1.42	0.01	▲0.11	0.37	0.47
NOMURA-BPI総合 （騰落率）	348.72	▲0.01%	1.11%	▲2.73%	▲3.10%

※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日（休日の場合は前営業日）までとします。

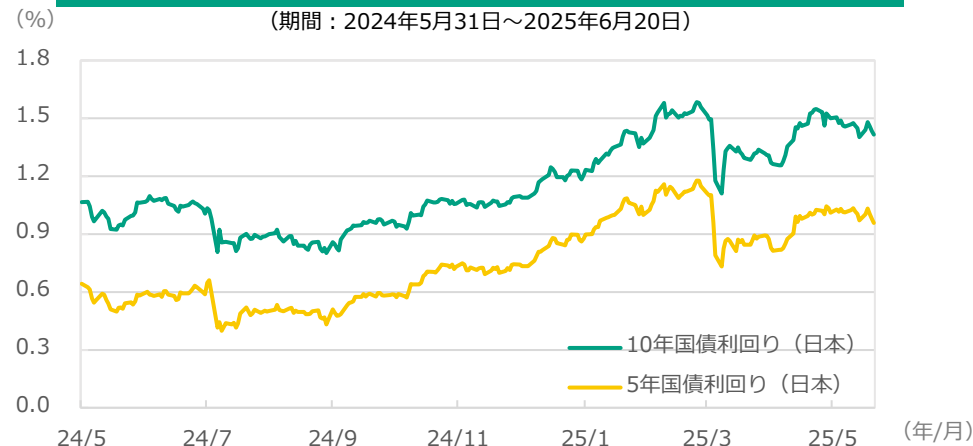
※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202506_outlook.pdf

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客様の投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客様自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>

日本国債利回りの推移

（期間：2024年5月31日～2025年6月20日）



NOMURA-BPI総合指数の推移

（期間：2024年5月31日～2025年6月20日）



※2024年5月31日の値を100として指数化

※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成

マーケットの動き（2025年6月16日～6月20日）

先週の米国国債市場は、前週末比で金利は低下しました（債券価格は上昇）。18日に開かれたFOMC（米国連邦公開市場委員会）での政策金利据え置き決定は相場の重荷となりましたが、米景気関連指標が市場予想を下回ったことや、中東情勢の緊迫化などを背景に米国金利は低下しました。

欧州国債市場は、前週末比で金利はほぼ横ばいでした。

投資環境見通し（2025年6月）

長期金利は、米国、欧州（ドイツ）ともに徐々にレンジを切り下げる

米国：インフレ懸念に加えて、関税政策や債務上限問題を受けた海外投資家による資産の一部引き揚げの動きは長期金利の上昇要因とみられます。しかし、追加関税発動前の駆け込み需要の反動や長期金利高止まりの影響に加えて、景気は減速に向かうと考えられることから、長期金利は徐々にレンジを切り下げるとみています。

欧州：世界的な財政懸念が広がる中、ドイツ長期金利は高止まりとなっていますが、ユーロ圏のインフレ率が来年にはECB（欧州中央銀行）の目標を下回るとの見方に加え、米国関税政策の影響から景気の減速が懸念されることもあり、徐々にレンジを切り下げるとみています。

	6月20日	変動幅（騰落率）			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
10年国債利回り（米国、%） （変動幅）	4.38	▲0.03	▲0.10	▲0.15	0.13
FTSE世界国債インデックス 除く日本、円ベース（騰落率）	604.44	1.23%	2.59%	▲1.21%	▲1.85%

※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日（休日の場合は前営業日）までとします。

※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202506_outlook.pdf

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客様の投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客様自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>

主要国国債利回りの推移

（期間：2024年5月31日～2025年6月20日）



FTSE世界国債インデックスの推移

（期間：2024年5月31日～2025年6月20日）



※2024年5月31日の値を100として指数化

※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成

マーケットの動き（2025年6月16日～6月20日）

先週の国内リート市場は、前週末比で上昇しました。

日銀金融政策決定会合において政策金利が据え置かれたことや、財務省の超長期債の発行減額に関する報道、週後半の超長期債の金利低下などを受け、国内リートは上昇しました。

セクター別では、オフィスセクター、商業・物流等セクターが上昇した一方、住宅セクターは下落しました。

投資環境見通し（2025年6月）

国内リート市場は、底堅く推移すると予想

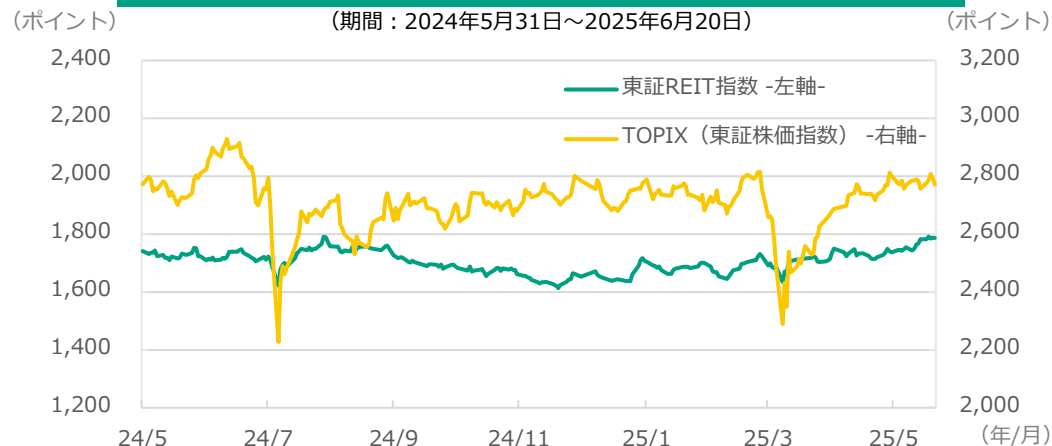
物価上昇が続く環境下、国内リートの成長意欲が高まっています。積極的な賃料引き上げやポートフォリオの質を向上させる物件入れ替え、キャピタルアロケーション（資本配分）により高い成長率目標を掲げるようになりました。市況の回復を背景に、賃料上昇も加速しています。国内公募リート投信の資金流出が落ち着きをみせていることから、需給環境の改善により国内リート市場は底堅く推移すると予想します。

	6月20日	騰落率			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
東証REIT指数	1,786.11	0.20%	4.07%	9.97%	3.16%
<ご参考> TOPIX（東証株価指数）	2,771.26	0.54%	1.18%	2.56%	1.68%

※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日（休日の場合は前営業日）までとします。

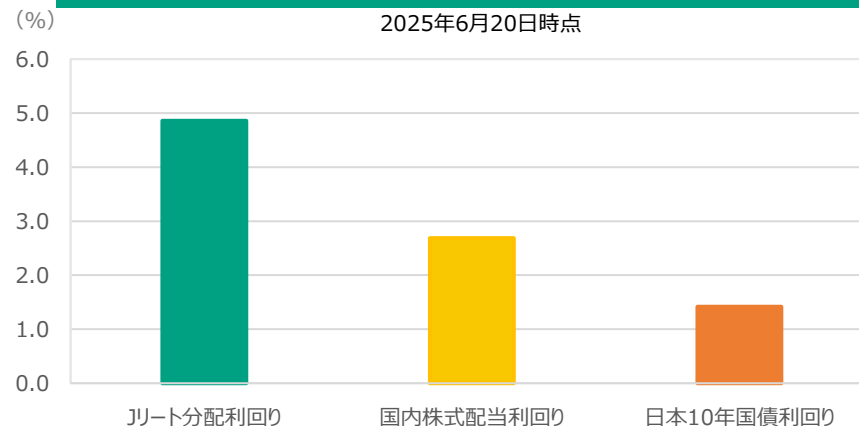
東証REIT指数、TOPIXの推移

（期間：2024年5月31日～2025年6月20日）



国内各種資産利回り

2025年6月20日時点



※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>

マーケットの動き（2025年6月16日～6月20日）

先週の為替市場は、前週末比で米ドルは対円で上昇（円安）しました。
5月の米小売売上高が市場予想を下回ったことなどをを受けて米ドルは対円で一時的に下落しましたが、原油価格上昇による日本の貿易収支悪化懸念や、都議会選・夏の参議院選を背景とした財政支出拡大懸念などをを受けて円は売られました。
ユーロは前週末比、対円で上昇した一方、対米ドルでは下落しました。

投資環境見通し（2025年6月）

円に対して米ドルは弱含み、ユーロはレンジ内での動き

米ドル：基軸通貨としての位置付けは続くと思われますが、米国における債務問題やスタグフレーション（経済活動の停滞と物価の持続的な上昇が併存する状態）に対する懸念がドルの下押し圧力とみられ、ドルは円に対してレンジ内で弱含むとみています。

ユーロ：米国の関税政策や債務問題を受けた海外投資家による資産の一部引き揚げの動きがドル安ユーロ高の要因とみられますが、一方でECB（欧州中央銀行）の利下げ姿勢とユーロを巡る強弱材料が交錯する中、ユーロは円に対してレンジ内で推移するとみています。

	6月20日	変動幅（円）			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
米ドル/円	145.92	1.77	1.35	▲10.60	▲12.82
ユーロ/円	168.02	1.63	5.12	5.27	▲2.17

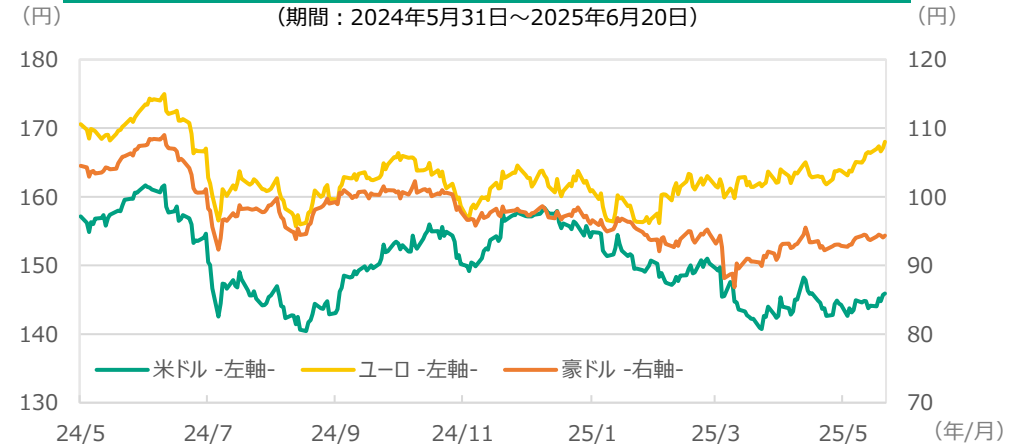
※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日（休日の場合は前営業日）までとします。

※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202506_outlook.pdf

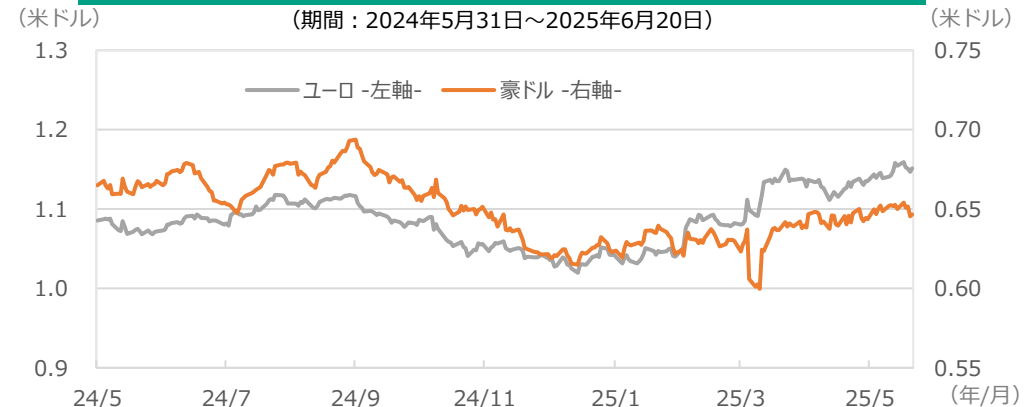
為替レートの推移（対日本円）

（期間：2024年5月31日～2025年6月20日）



為替レートの推移（対米ドル）

（期間：2024年5月31日～2025年6月20日）



※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>

使用インデックスについて

●T O P I X（東証株価指数）、東証プライム市場指数、東証スタンダード市場指数、東証グロース市場指数、東証R E I T指数の指数値及びT O P I X（東証株価指数）、東証プライム市場指数、東証スタンダード市場指数、東証グロース市場指数、東証R E I T指数に係る標章又は商標は、株式会社J P X総研又は株式会社J P X総研の関連会社（以下「J P X」といいます。）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用などT O P I X（東証株価指数）、東証プライム市場指数、東証スタンダード市場指数、東証グロース市場指数、東証R E I T指数に関するすべての権利・ノウハウ及びT O P I X（東証株価指数）、東証プライム市場指数、東証スタンダード市場指数、東証グロース市場指数、東証R E I T指数に係る標章又は商標に関するすべての権利はJ P Xが有します。J P Xは、T O P I X（東証株価指数）、東証プライム市場指数、東証スタンダード市場指数、東証グロース市場指数、東証R E I T指数の指数値の算出又は公表の誤謬、遅延又は中断に対し、責任を負いません。

●日経平均株価に関する著作権等の知的財産権、その他一切の権利は日本経済新聞社に帰属します。なお、日本経済新聞社は対象インデックスを用いて行われる事業活動・サービスに関し保証するものではありません。

●S&P500®は、S&P Dow Jones Indices LLCまたはその関連会社（「SPDJI」）の商品であり、これの使用ライセンスが当社に付与されています。S&P®およびS&P500®は、S&P Global, Inc. またはその関連会社（「S&P」）の登録商標で、Dow Jones®はDow Jones Trademark Holdings LLC（「Dow Jones」）の登録商標であり、これらの商標の使用ライセンスはSPDJIに付与されており、当社により一定の目的でサブライセンスされています。当ファンドは、SPDJI、Dow Jones、S&P、それらの各関連会社によって後援、推奨、販売、または販売促進されているものではなく、これらのいずれの関係者も、かかる商品への投資の妥当性に関するいかなる表明も行わず、当インデックスのいかなる過誤、遺漏、または中断に対しても一切の責任を負いません。

●NOMURA-BPI総合はわが国の公社債市場全体の動きを捉えたものとして、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社により公表されている指数で、機関投資家等に広く利用されており、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社の知的財産です。野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社は当社の個々のファンドの運用成果等に関し一切責任はありません。

●FTSE世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLC により運営され、世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。このインデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLC は、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLC に帰属します。

●その他当資料にて使用したDAX指数、FTSE100、NYダウ指数の知的財産権、その他一切の権利は、それぞれ、ドイツ取引所、FTSE社、S&P Dow Jones Indices LLCに帰属します。

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。